

資料4 評価対象課題の研究内容と評価結果（概要）

研究課題	4 ツキノワグマの個体群動態と将来予測手法の開発ならびに人里への出没メカニズムの解明（H29-R3）
研究目的・背景	モデル地域でヘア・トラップ調査を実施して個体群動態と将来予測を行い、捕獲上限数の算定方法を開発する。また GPS テレメトリーによる行動圏の把握をもとに人里への出没メカニズムを解明する。
研究内容	<p>○モデル地域(岩手大学御明神演習林)でのヘア・トラップ調査の実施(平成29～令和3年度)</p> <p>○動態モデルの構築(広域下とモデル地域の密度差を考慮)(平成30～令和2年度)</p> <p>○堅果類の結実豊凶調査の結果から自然増加率の推定(平成30～令和2年度)</p> <p>○将来予測による捕獲上限数の算出方法の検討(令和3年度)</p> <p>○GPS テレメトリーによる行動圏の把握(平成29～令和2年度)</p> <p>○行動圏内の植生調査(平成29～令和2年度)</p>
評価結果	<p>○総合評価 A (4人)・B (1人)・C (0人)・<del>D (1人)</del></p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究は着実に進んでおり、将来予測に向けた進展も期待できる。</li> <li>・ 着実に進められているが、将来予測や出没可能性予測につながるよう研究を加速してほしい。</li> <li>・ 研究は全体として順調に推移しており特に問題は認められない。</li> <li>・ 早期に精度の高い個体数推定を行い、絶滅を回避しつつ事故等を減少させるための個体数調整が行えるようにしていただきたい。</li> <li>・ ツキノワグマの個体群動態と将来予測手法の開発ならびに人里への出没メカニズムの解明研究は、緊急・重要性が高く、総合的な評価は A 評価と考える。</li> </ul>
センターの対応方針	<p><b>1 研究計画のとおり実施</b>      2 一部見直しの上実施</p> <p>3 計画再考      4 中止</p> <p>岩手県におけるツキノワグマによる人身被害や農林被害を低減するため、捕獲上限設定に繋がる精度の高い個体数推定の研究に努め、保護管理計画の策定等に貢献していくとともに、大量出没メカニズムの解明をさらに進めていきたい。</p> <p>なお、研究に当たっては、他機関との密な連携を図っていきたい。</p>

※ 記載欄は適宜調整（拡縮）してください。